

旧日本銀行広島支店：概要

原爆ドームと同じく、旧日本銀行広島支店も典型的な洋館で、この地域で 1945 年 8 月 6 日の原爆投下でも倒壊しなかった数少ない建物の 1 つです。この銀行は爆心地からわずか 380 メートルしか離れておらず、頑丈な構造と少しの運が重ならなければ倒壊していたでしょう。

この 3 階建ての銀行は、1936 年に竣工した当時、広島市で最もモダンな建築の 1 つでした。鉄骨フレームと鉄筋コンクリートの壁、大理石の内装、そして大広間の天窓などが特徴でした。正面は天然石を模したデザインで、入口は当時広島を繰り返し襲っていた洪水の対策として高められていました。2 階には特別な通路があり、支店長は簡単に職員を監視できました。窓には電動の鎧戸まで設置されていました。

この鎧戸は厚さが 5 センチメートルで、原爆投下の朝には 1 階と 2 階部分はまだ閉められていました。そのおかげで衝撃波の勢いが抑えられ、1 階と 2 階は火の手から守られました。残念ながら、3 階にあった財務局では原爆投下時に職員がすでに働き始めていたため、3 階の鎧戸は開けられていました。爆発とそれによる火災で、18 人いた職員のうち 8 人が亡くなりました。火は下の階にも広がり始めましたが、素早く消し止められました。天窓は破壊されましたが、支店長が空襲や火災から建物を守るために屋上に 1 メートルの砂を敷いていたおかげで、屋根は破壊を免れました。銀行の金庫やその中の資金にも被害はなく、銀行業務はわずか 2 日後に再開できました。

2000 年に、この建物は重要文化財に指定され、現在では広島市が管理しています。3 階は部分的に再建され、またボランティアのガイドが銀行のツアーを行っています。さらに、地元住民に対しては、展示会やミーティング用に部屋の貸し出しが行われています。